



## 新年のごあいさつ

(一社)千葉県造園緑化協会  
会長 伊藤 高広

令和6年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素より会員の皆様、国、県、市町村、関係団体の皆様には協会の事業活動に対し格別のご支援、御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、(一社)千葉県造園緑化協会は、これまで様々な活動を通じ県民のみどり豊かで安心できる生活環境を創造し社会に貢献しようと、会員一丸となり取り組んでまいりました。

県の課題となっています広葉樹による海岸林再生技術の確立を図るため、長生郡白子町で8年間クロマツと広葉樹の混交林の植栽・育成に取り組み、広葉樹の多くが枯死するなどの経験を活かし、植栽基盤の保水性を高める客土や夏の高湿乾燥防止や雑草抑制等としての緑肥植物などを取り入れ、平成28年から県と連携し山武郡横芝光町において「千葉県造園協会の森」として、タブノキ・シャリンバイなど広葉樹9種類614本を植樹、そして育成管理、生育調査を令和5年3月末に終了し、県に海岸林再生に適している植栽樹種の選定などを取りまとめた広葉樹生育調査報告書を提出しました。

昨年9月、台風13号接近に伴い県内で線状降水帯が発生し記録的な大雨により「県立長生の森公園」の法面崩壊と倒木が発生し、県から災害協定に基づき2011年東日本大震災以来となる災害応急業務協力要請により、災害応急復旧工事を実施しました。

また、伝統文化に触れていただくため一般市民向け「ミニ門松講習会」、協会員制作の本格的門松を県庁、県立こども病院など3箇所へ寄贈、造園関係の高校、専門校への校外授業や出前授業、

造園技能検定実技試験の検定委員としての協力など様々な活動を展開してまいりました。

協会活動のもう一つの柱である会員企業の経営の安定化や人材育成の確保を図る共益活動も重要です。会員企業は、ダンプ受注や造園工事の減少に苦慮し、厳しい経営環境を強いられているのが現実です。

県の緑地管理・道路清掃委託業務において、同時発注・同一業者による複数落札案件が多く見受けられることから、業務の品質確保と受注機会の増大を図るため、同一事業者による重複参加を制限する措置が必要です。

また、経営の安定化と造園技術技能の低下防止・継承をするためには、造園工事が減少する中において、県の公園工事が国の指針では造園工事で発注されるべきところ、今年度県の発注見通しでは7割が土木一式工事など他工種で入札に参加できない状況のため、県立公園のある7つの土木事務所に対し、造園工事拡大の要望活動を行ないました。その結果、他工種から造園工事に切り替えて発注する案件が見られるようになりましたが、一層の改善が望まれるところです。

さらに、技術技能を発揮し磨くことができる造園工事現場の確保が必要であり、造園建設予算の拡大が不可欠です。

緑は街の歴史や文化を表現する大切な社会資本です。これからも社会資本整備への期待に応えていかなければならないと決意しています。皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、本年が皆様にとりまして明るく希望に満ちた飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。